

ディスコグラフィー掲載

ディスコグラフィー【2019No.154】(HP 掲載)

分類：SACD/CD

作曲家：ウジェーヌ・イザイ

曲：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ op. 27 (全6曲)

演奏：米元響子 (Vn)

発売：King International

No. : KKC-057

概要：

女性ヴァイオリン奏者4名による演奏会で求めてきたCDです。



収録曲：

ウジェーヌ・イザイ

無伴奏ヴァイオリン・ソナタ op. 27 (全6曲)

未完のソナタ ハ長調 (新発見のソナタ)

演奏：

米元響子(Vn)

録音時期：

2018年12月~2019年1月

録音場所：

King Sekiguchidai Studio

ネットから得られた情報を下記に引用します。

「破格のスケール感 久々の本格芸 1727年製ストラディヴァリウスの圧倒的音色！
米元響子、待望の初 CD は満を持して臨んだイザイ無伴奏ソナタ集

新発見の未完のソナタも収録の注目盤！

類まれなる集中力と高い技術、明晰なアーティキュレーション、それでいてふくよかで豊かな柔らかさもある音楽。いま世界中から熱き視線を集めるヴァイオリニスト、米元響子が待望の初 CD をリリース。演目はイザイの無伴奏ソナタ全曲、さらに最近になって発見された未完のソナタも収録しているという注目盤です。録音は最高位の DSD11.2MHz で行われており、米元がすぐそこで弾いているような臨場感あふれる録音となっています。

米元響子は 1997 年パガニーニ国際ヴァイオリンコンクール(イタリア)において、史上最年少 13 歳で入賞。その後、2001 年日本音楽コンクールでも優勝、その後も様々なコンクールで優勝入賞を重ねているまさに実力者。2018 年 3 月末からは、サントリ一芸術財団より 1727 年製ストラディヴァリウスを貸与され、その芸と音色に凄みも増し、ますますその音楽は充実してきています。米元はガット弦を使用しており、その音色はあたたかく力強く、しかも抜群の安定感です。これまで CD がなかったのが不思議なほどですが、それはレコーディングには大変慎重な姿勢を見せていたから。デビュー 20 周年を迎え、また素晴らしい楽器の力も得て、まさに機が熟したといえるこのタイミングでの初 CD となります。イザイが暮らした街リエージュで、米元が実際にイザイの自筆譜に触れたことも、録音を決意する決定的な後押しになったといいます。



【イザイのヴァイオリン・ソナタ】

6 曲から成るイザイの無伴奏ヴァイオリン・ソナタ op.27 は言わずと知れた難曲ぞろい。自身優れたヴァイオリニストでもあったイザイが、バッハの無伴奏ソナタ & パルティータを強く意識して書いたもの（イザイの自筆譜にはバッハの各曲の調性のメモもあります）。各曲が名ヴァイオリン奏者やイザイの高弟に捧げられているのも特徴。第 1 番はシゲティ、第 2 番はティボー、第 3 番はエネスコ、第 4 番はクライスラー、第 5 番はイザイの高弟でイザイ弦楽四重奏団の第 2 ヴァイオリン奏者を務めてもいたマシュー・クリックボーム、第 6 番はイザイの高弟、マヌエル・キログに捧げら

れています。バッハの引用があったり、グレゴリオ聖歌の引用があったり、また、バロック風、スペイン舞曲風、印象派絵画のような楽曲など、実に個性豊かで超絶技巧も随所に盛り込まれた楽曲ぞろい。今回米元は常にイザイの自筆譜のコピーを手元に置き、イザイの声を追い求めながら録音に臨みました。米元の技術の高さと極めて力強く明晰なアーティキュレーション、ふくよかで豊かなやわらかさもある音楽で、これまでにないイザイが登場したといえるでしょう。

【未完のソナタ（新発見）も収録】

最近発見され話題となった注目の未完のソナタは、イザイが遺した鉛筆書きのスケッチ等を含む譜集に収められていたもの。この譜集は、もともとはイザイ(1858-1931)の死後、英国のヴァイオリニスト、フィリップ・ニューマン(1904-1966)に遺族が寄贈したもの（ニューマンは、イザイの臨終の枕元で、無伴奏ソナタ第4番を演奏した人物でもありました）。ニューマンの死後、その譜集はベルギーの女性ヴァイオリニストでニューマンと親しい友人関係だったジョゼット・ラヴェルニュ(1921-2015)の手に渡り、彼女の死後、ブリュッセル音楽院の図書館に彼女の資料コレクションが寄贈されました。件の未完のソナタ（第3楽章の途中で終わっている）は、イザイの手書きのタイトルには「第6番」とあり、ハ長調で書かれています。バッハの無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第3番もハ長調のため、イザイはバッハを意識して当初このハ長調で構想したのかもしれませんが。華やかな技巧も盛り込まれた美しい作品です。今回の録音では、補筆補完等はせず、イザイが書き遺したところまでを演奏しています。

【DSD11.2MHzの高品位録音】

米元の奏でるヴァイオリンのつややかにして変幻自在な音色、力強い推進力と、それでいて全体に漂う米元の音楽の豊かさとやわらかさももれなく伝える DSD11.2MHz という高品位のスペックで録音。SACD ハイブリッドの発売です。」

マスターの録音フォーマットが DSD11.2MHz というだけあって、非常にリアルにガット弦のストラディヴァリウスの音色を捉えています。

先の[女性ヴァイオリン奏者4名による演奏会](#)では、最前列で聴けましたので、米元響子がソロを弾くパートも聴いており、その音色が相当のところ再現できています。

イザイのソナタは、どれも技巧的で複雑に音が綾なすところがありますが、この演奏はそういったところが遺憾なく捉えられています。

新発見の未完のソナタはもちろん初めて聴くもので、興味深く聴けました。

以上